



決算説明会

2008年3月期第3四半期

2008年2月1日

ミネベア株式会社

連結業績ハイライト

(百万円)	2007年3月期 1Q-3Q累計	2008年3月期 1Q-3Q累計	前年同期比 伸び率
売上高	247,330	253,389	+2.4%
営業利益	19,976	23,476	+17.5%
機械加工品	20,086	20,851	+3.8%
電子機器	△109	2,625	黒転
経常利益	16,442	20,692	+25.8%
税引前利益	16,189	19,199	+18.6%
当期純利益	11,677	12,528	+7.3%
一株当たり 当期純利益(円)	29.26	31.40	+7.3%

為替レートの変動 07/3期1Q-3Q → 08/3期1Q-3Q
 US\$ 115.96円 → 117.57円、ユーロ 147.33円 → 162.52円
 タイパーツ 3.08円 → 3.73円(3.42円)、人民元 14.56円 → 15.51円
 但し、カッコ内は、タイ中央銀行発表のオンショア・レート

2008年2月1日

1

 Minebea

2008年3月期第3四半期累計の連結業績は、売上高 2,533億8,900万円、営業利益 234億7,600万円、純利益125億2,800万円となりました。

前年同期に比較して、売上高は2.4%増、営業利益は17.5%増、純利益は7.3%増と、増収増益となりました。これは主に、ボールベアリング、ロッドエンドベアリング、ピボットアッセンブリーを中心とした機械加工品セグメントが堅調で増収増益となり、更に、情報モーター、キーボードを中心に電子機器セグメントで利益が大きく改善したためです。

3Q連結業績ハイライト

主要製品への需要は引き続き強く、利益は着実に増加
 売上には円高とクリスマス休暇の影響

(百万円)	2007年3月期 3Q	2008年3月期 2Q	2008年3月期 3Q	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
売上高	83,332	86,481	85,142	+2.2%	-1.5%
営業利益	6,609	8,006	8,355	+26.4%	+4.4%
機械加工品	6,769	7,105	7,147	+5.6%	+0.6%
電子機器	△159	901	1,208	黒転	+34.1%
経常利益	5,495	6,984	7,456	+35.7%	+6.8%
税引前利益	5,075	6,720	7,003	+38.0%	+4.2%
当期純利益	4,209	4,341	5,054	+20.1%	+16.4%
一株当たり 当期純利益(円)	10.54	10.88	12.67	+20.1%	+16.4%

為替レートの変動 2Q → 3Q
 US\$ 119.42円 → 113.45円、ユーロ 162.43円 → 163.92円
 タイパーツ 3.84円(3.49円) → 3.64円(3.33円)、人民元 15.80円 → 15.17円
 但し、カッコ内は、タイ中央銀行発表のオンショア・レート

2008年2月1日

2

 Minebea

2008年3月期第3四半期の連結業績は、売上高851億4,200万円、営業利益83億5,500万円、純利益50億5,400万円となりました。

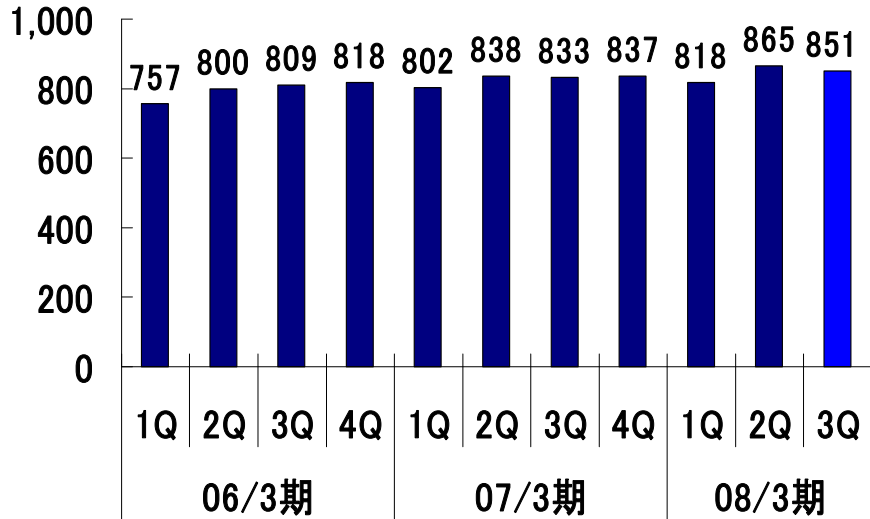
主要製品への需要は引き続き強く、利益は着実に増加しました。一方、売上については、第2四半期比では1.5%減となりましたが、これは主に円高の影響と、クリスマス休暇による季節性の影響です。

四半期推移

売上高

前年同期比	+2.2%
前四半期比	-1.5%

(億円)



2008年2月1日

3

Minebea

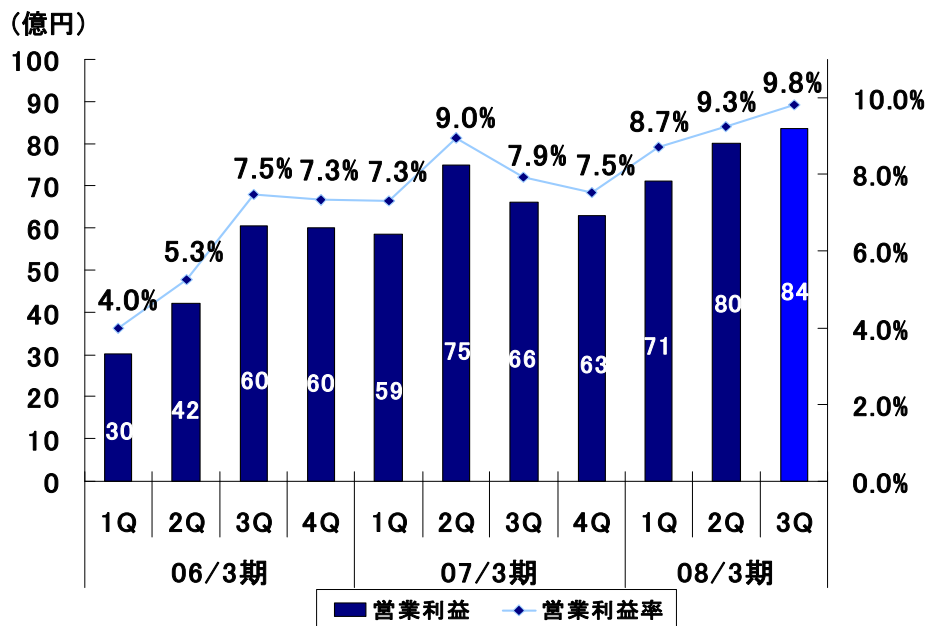
第3四半期の売上高は851億円と、前年同期比では2.2%増加していますが、第2四半期比で1.5%減少しました。

第2四半期比での減少は、主に欧米のクリスマス休暇による季節性に加え、円高を中心とした為替の影響が-29億円ありました。

四半期推移

営業利益

前年同期比 +26.4%
前四半期比 +4.4%



2008年2月1日

4

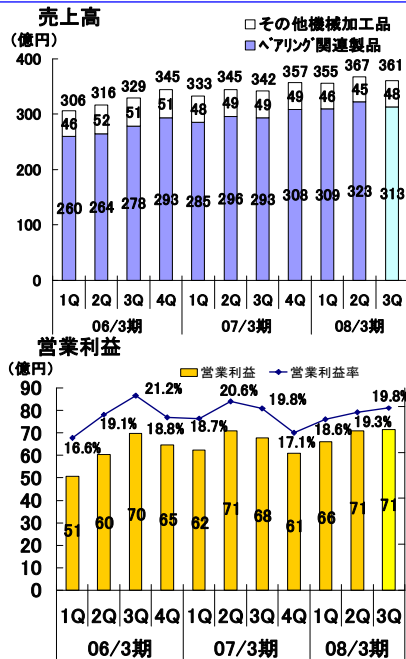
Minebea

第3四半期の営業利益は84億円となり、前年同期比で26.4%、第2四半期比で4.4%増加しました。また、営業利益率も9.8%と、改善が続いています。第2四半期比4億円の増加のうち、機械加工品セグメントは微増、電子機器セグメントでは3億円の増加です。

なお、為替の影響は、前年同期比で-9億円、第2四半期比で+1億円となりました。

セグメント別

機械加工品事業 売上高・営業利益



ミニチュア・小径ボールベアリング

売上高 前年同期比 +1.9%
前四半期比 -3.5%
3Qは為替の影響あったが、
需要は堅調

ロッドエンド・ベアリング

売上高 前年同期比 +9.5%
前四半期比 -5.5%
3Qはクリスマス休暇と為替の影響あったが、
航空機向けに引き続き旺盛な需要

ピボット・アッセンブリー

売上高 前年同期比 +17.7%
前四半期比 -0.2%
HDD市場の成長を受けて数量拡大

2008年2月1日

5



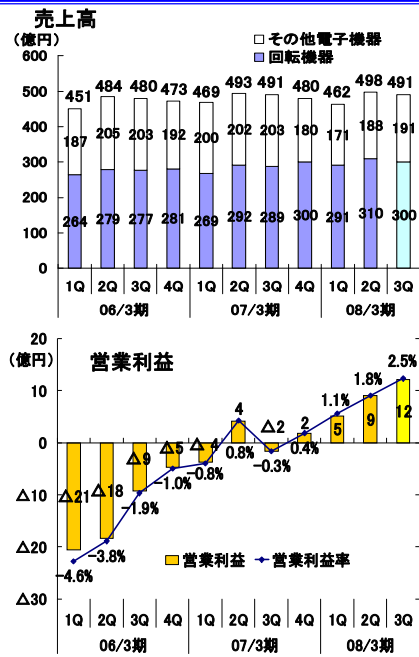
まず、ミニチュア・小径ボールベアリングにつきましては、第3四半期の売上高は前年同期比1.9%増、第2四半期比3.5%減となりました。社内使用と合わせた販売個数は月1億9,200万個と、第2四半期比で200万個増加し、過去最高レベルを更新中です。これは引き続きピボットアッセンブリー向け、ファンモーター向けの需要が強いことが主な要因です。しかし、第2四半期比で売上が減少したのは主に円高USDドル安の影響です。利益面では、第2四半期に比べ、コスト削減により、利益が増加しました。第4四半期も販売数量は堅調に推移すると見込んでおります。

ロッドエンドなど航空機用ベアリングは、引き続き好調な世界の航空機需要を受けて受注好調なもの、第3四半期は欧米のクリスマス休暇と円高USDドル安のため、売上高は前年同期比9.5%増、第2四半期比5.5%減となりました。利益面では、第2四半期に比べ売上減少によって、利益が減少しました。第4四半期以降は、旺盛な需要に確実に応えるべく生産数量の増加に努めてまいります。

HDDに使用されるピボットアッセンブリーは、第3四半期の売上高が前年同期比17.7%増、第2四半期比0.2%減となりました。昨年夏以降のHDD市場の好調を受け、ピボットアッセンブリーの第3四半期販売数量は月2,800万個と、第2四半期から月100万個増加しましたが、売上には円高USDドル安の影響が出ています。利益面では、増産効果もあり第2四半期に比べ増加しました。第4四半期の販売数量についても、季節性から若干減少するものの高水準で推移すると見込んでおります。

以上により、機械加工品事業セグメントの第3四半期の売上高は361億円、営業利益は71億円となり、営業利益率は19.8%となりました。

セグメント別 電子機器事業 売上高・営業利益



2008年2月1日

- HDDスピンドルモーター**
売上高 前年同期比 +19.2%
前四半期比 +0.9%
歩留まり向上とコスト削減に注力中
- 情報モーター**
売上高 前年同期比 -6.0%
前四半期比 -6.9%
ファンモーター、ステッピングモーターで売上減少
- キーボード**
売上高 前年同期比 -5.3%
前四半期比 -12.7%
クリスマス商戦後の需要減で売上減少
- 計測機器**
売上高 前年同期比 +52.4%
前四半期比 +24.8%
ゲーム機関連の新規ビジネスを中心に売上増加
- エレクトロデバイス**
売上高 前年同期比 -7.3%
前四半期比 +13.4%
インバーターが大型液晶TV向けに、需要好調
- スピーカー**
売上高 前年同期比 -35.9%
前四半期比 -19.2%
売上減少

6



HDDスピンドルモーターの売上高は、前年同期比19.2%増、第2四半期比0.9%増となりました。昨年夏以降のHDD市場の好調を受け、第3四半期販売数量は月550万台となり、うち2.5インチHDD向けモーターも月130万台と増加しました。しかし利益面では、歩留まり向上、コスト削減に努めたものの、生産拠点であるタイのパーツ高ドル安の影響もあり、改善はしましたが依然赤字が残りました。引き続き、年度内での月次黒字化を目標に、収支改善に取り組んでいきます。

情報モーターでは、売上高は、前年同期比6.0%減、第2四半期比6.9%減となりました。利益面では、引き続きコスト削減に努めたものの、ファンモーターでは生産拠点である中国の人民元高ドル安の影響と競争激化、ステッピングモーターもクリスマス商戦向け需要の終了による売上減少により、利益が減少しました。今後ともコスト削減を更に進め、収益の改善を図ります。

キーボードの売上高は、第2四半期比12.7%減となりました。これは、ノートPC用キーボードの販売が引き続き好調だったものの、デスクトップPC用ハイエンド製品でクリスマス商戦向け需要が終了してきたことによるものです。利益は第2四半期に比べ、減少しました。

計測機器の売上高は、前年同期比52.4%増、第2四半期比24.8%増となりました。これは、任天堂様のWiiFit向けにストレインゲージ式フォースセンサの販売が増加していることが主な要因です。利益も増加しました。

エレクトロデバイスでは、売上高が前年同期比7.3%減、第2四半期比13.4%増となりました。大型液晶TV向けにインバーターが好調で、LEDバックライトも数量が伸びました。利益面では、第2四半期に比べて増加しました。

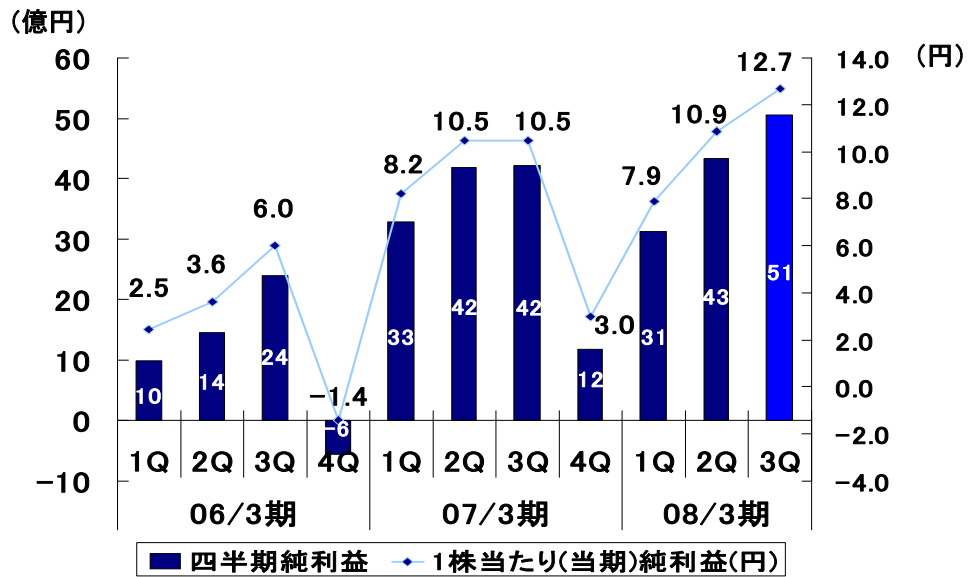
スピーカーの売上高は、前年同期比35.9%減、第2四半期比19.2%減となり、販売減少で赤字でした。現在、収支改善のため、タイでの生産を中国へ移管中です。

以上により、電子機器事業セグメントの売上高は491億円、営業利益は12億800万円となり、営業利益率は2.5%と着実に改善しました。

四半期推移

当期純利益

前年同期比	+20.1%
前四半期比	+16.4%



2008年2月1日

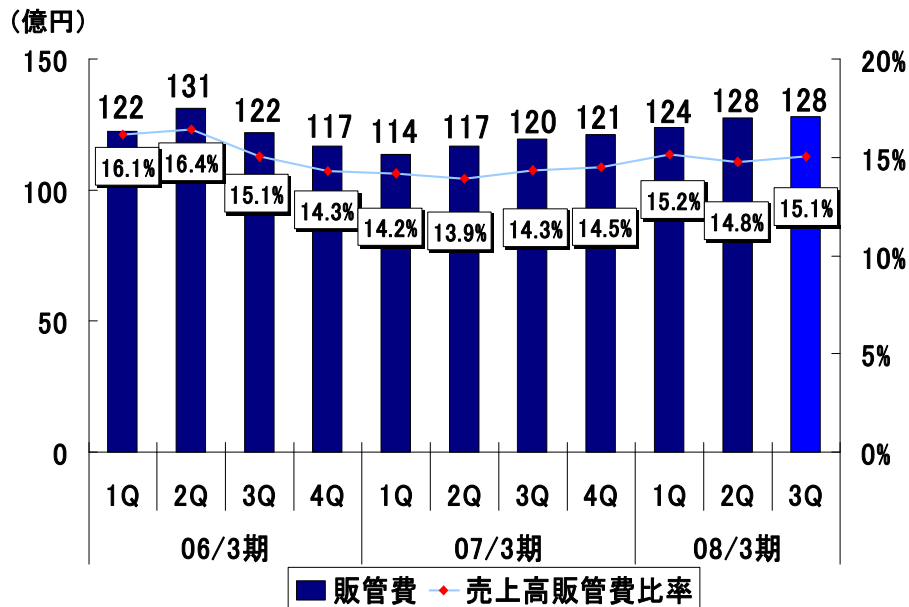
7

Minebea

第3四半期の当期純利益は50億5,400万円、一株当たり12.7円と、前年同期比20.1%増、第2四半期比では16.4%増となりました。

四半期推移

販管費



2008年2月1日

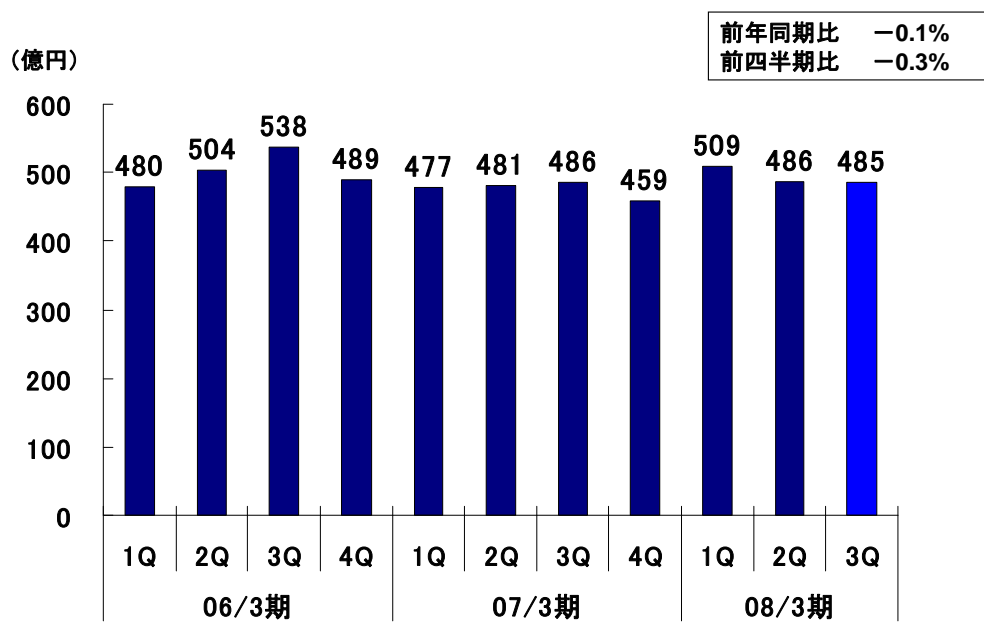
8

Minebea

第2四半期に比べて横ばいで、128億円でした。売上高販管費比率は15.1%へ0.3ポイント上昇しましたが、これは第2四半期比で売上は減少した一方で、輸送費が燃料費上昇の影響を受けていることなどが要因です。今期については財務報告に係わる内部統制費用といった増加要因もありますが、今後とも引き続き、販管費および経費の抑制に努めてまいります。

四半期推移

たな卸資産



2008年2月1日

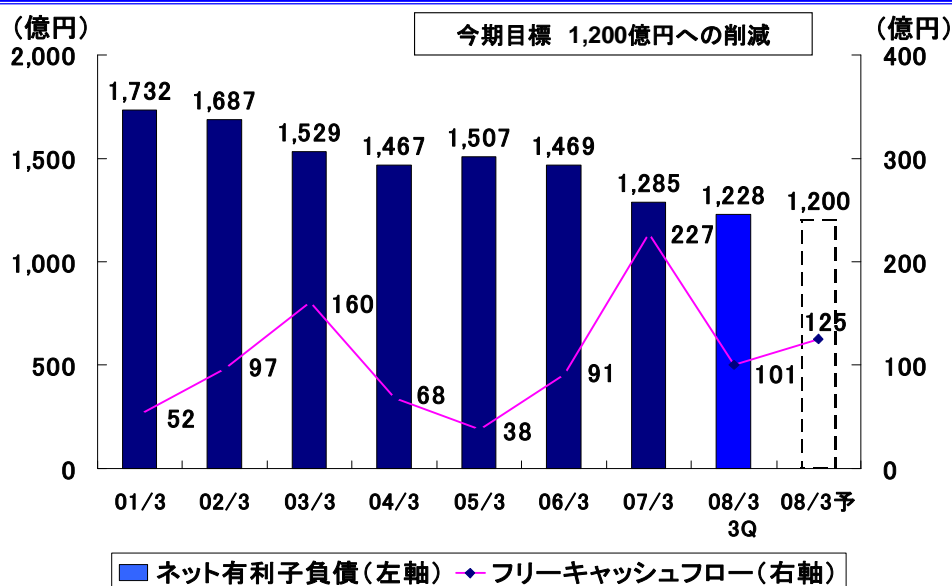
9

Minebea

第2四半期に比べて、1億円の減少となりました。今後とも引き続き在庫削減に取り組んでまいります。

年推移

ネット有利子負債



■ ネット有利子負債(左軸) ◆ フリーキャッシュフロー(右軸)

ネット有利子負債 : 有利子負債合計 - 現預金
 フリーキャッシュフロー : 営業活動CF + 投資活動CF

2008年2月1日

10

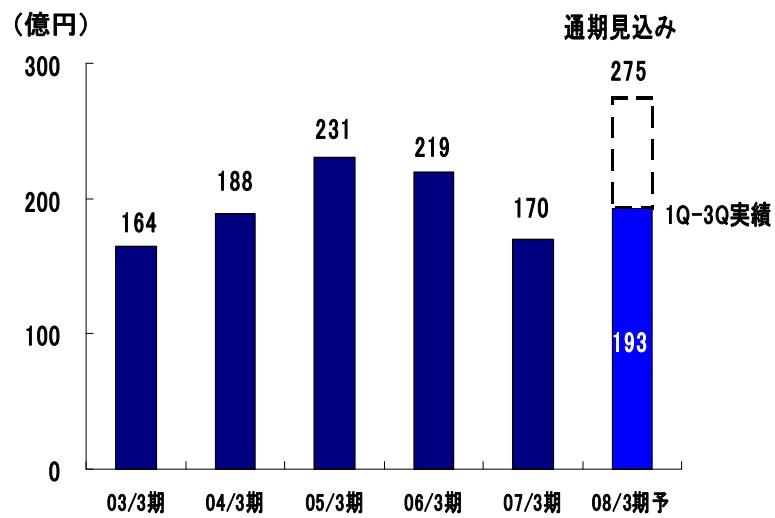


第3四半期末における、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債は1,228億円と、前期末から58億円の減少となりました。中間期末と比べても17億円減少しております。フリーキャッシュフローも着実に増加し、第3四半期累計で101億円となりました。

今後も、今期目標であるネット有利子負債残高1,200億円への削減に向けて、努力をつづけてまいります。

年推移

設備投資額



2008年2月1日

11

 Minebea

通期予想275億円に対し、第3四半期累計の設備投資額は、193億円でした。主な投資はボールベアリング、航空機部品などにおける増産投資です。

業績見通し

通期予想を上方修正します

(百万円)	2007年3月期	2008年3月期修正予想		従来予想	従来予想比
	通期	通期予想	前年比伸び率	通期予想	増加額
売上高	331,022	335,000	+1.2%	335,000	0
営業利益	26,265	31,500	+19.9%	30,000	1,500
機械加工品	26,195	27,900	+6.5%	27,900	0
電子機器	69	3,600	52.2倍	2,100	1,500
経常利益	21,843	27,000	+23.6%	25,000	2,000
税引前利益	19,523	24,500	+25.5%	23,500	1,000
純利益	12,862	16,000	+24.4%	15,000	1,000
一株当たり純利益(円)	32.23	40.10	+24.4%	37.59	2.51

為替レート 07/3期通期実績 → 08/3期通期想定
 US\$ 116.91円 → 117.25円、ユーロ 149.75円 → 161.32円
 タイパーツ 3.18円 → 3.70円、人民元 14.77円 → 15.45円

2008年2月1日

12



新しい通期業績予想では、売上高3,350億円は変わりませんが、営業利益は315億円と5%上方修正、うち機械加工品セグメントは279億円で変わらず、電子機器セグメントは36億円で71%上方修正します。また、経常利益は270億円、税引き前利益は245億円、純利益は160億円、一株当たり純利益は40.1円へ修正します。

弊社の主要製品であるミニチュア・ボールベアリング、航空機部品、HDD向けのピボットアッセンブリーやスピンドルモーター、インバーターおよび計測機器などについては、足元の需要は引き続き強い状況が続いています。1-3月についても若干の季節調整はあるものの堅調な需要が続くと見ており、引き続き業績改善を図ってまいります。

但し、米国のサブプライム住宅ローン問題を震源地とした金融市場の動揺が続いておりますので、引き続きタイパーツを中心とするアジア通貨やUSDルといった為替の動向、原材料市況動向、世界各国の景気動向などを主要なリスクとして注視しつつ、事業運営を行ってまいります。

イノベーションによる新市場の開拓

• 計測機器事業部でのWii向けビジネス

Wii Fit 付属 バランス Wii ボードへの当社ストレインゲージ式
フォースセンサの採用



2008年2月1日

13

 Minebea

最後にここで、新市場の開拓事例について皆様にご紹介したいと思います。

ミネベアは企業価値を高める源泉としてイノベーションに積極的に取り組んでいます。今年度からの中期事業計画の中でも、そのひとつの方向として、既存技術の新しいアプリケーションを開発することによる新市場の開拓に重点を置いています。

ここにご紹介するのは、今年度から具体的な成果が出ている任天堂様のWii向けのビジネスです。2007年12月から発売され大人気となっております「Wii Fit」という、ご家庭のリビングでフィットネスやゲームが楽しめるソフトウェアに付属する「バランス Wii ボード」に、当社のストレインゲージ式フォースセンサが1台当たり4個ずつ搭載されております。

この新規ビジネスの寄与もあって、計測機器事業部における第3四半期までの今年度累計売上高は75億円と、前年同期比26%の増加となっております。

この事例のように、ミネベアが持つ技術を生かすべく、市場におけるニーズに常に敏感であることで、今後とも新たなビジネスチャンスの開拓を行っていきたいと考えています。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。